



第 580 号

# しらさぎ

令和 8 年 8 月 27 日  
横浜市立公田小学校

## 「いざ」を支える日常の姿勢 ～防災訓練と日々の生活～

校長 中川 浩二

7 月 28 日に発生した熊本地震により被害を受けられた皆様に、謹んでお見舞いを申し上げます。皆様の安全と、被災地の速やかな 復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、9 月 1 日は「防災の日」です。関東大震災より 100 年余りが過ぎましたが、「命を守る」という教訓は、今も変わらず子どもたちへ伝え続けていかなければならない重要な課題です。

本校ではこの「防災の日」に合わせ、「総合防災訓練」を行います。今回は、「大地震が発生し校内放送が使えない」という事態を想定し、負傷した児童を担架で救助しながら、全校児童が安全に校庭へ避難する訓練を実施します。

毎回の訓練にあたり、私は、子どもたちに次の 3 つのことを伝え続けています。

1 【心構え】災害は、「いつ、どこで発生するかわからないこと」を意識し、真剣に訓練を行って体で覚えよう。

2 【自助】「自分の命は自分で守る」ことを自覚し、状況に応じて自分で考えて行動しよう。

3 【共助】お互いに助け合うため、先生の指示に従い、集団で安全に行動しよう。

訓練中の子どもたちは、決してふざけることなく真剣に行動し、校庭への避難完了後も緊張感ある表情を保っています。そして、静かに先生の顔を見て話を聞くことができます。

この「話を聞く姿勢」は、普段の朝会などでも見られ、公田小の子どもたちの良い点として、いつも褒めているところです。

全国各地で起きる災害のニュースを目にするたび、学校における防災教育の重要性を再認識させられます。

しかし、いざという時の判断力や行動力の基礎となるのは、実はこうした「日頃の生活習慣や態度」そのものです。「当たり前」に過ごせる日々」に感謝するとともに、日常の意識を高めていく指導を今後も続けてまいります。ご家庭でも、「防災の日」をきっかけに、災害時の避難場所や連絡方法などについて、お子さまと話し合っていただければ幸いです。